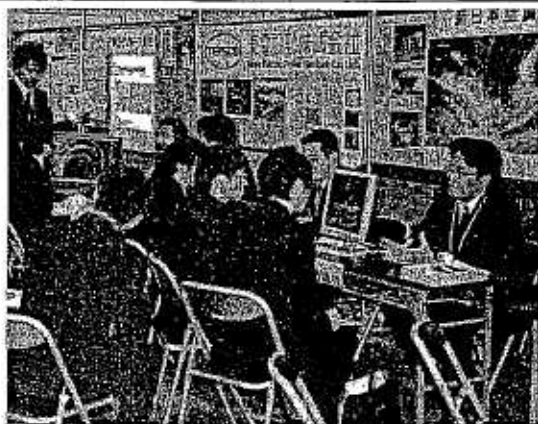


原子力産業
セミナー

延べ200人、高い関心

理工系学生 就職活動の選択肢に

原子力の将来を担う人材集まれ。日本原子力産業協会(会井敬会長)が主催する理工系学生を対象にした原子力産業セミナーが8日、東京・北青山のT&E P&Iで開かれ、初めての試みにもかかわらず大勢の学生が会場に詰めかけた。東京電力や中部電力をはじめ、燃料、メンテナンス会社など原子力関連の25の企業・団体が各ブースに分かれ事業内容や業界の動向などを説明。訪れた延べ200人の学生は熱心に聞き入るとともに、就職活動にも役立てようとする関心に担当者も質問を行っていた。



セミナーには25の企業・団体が参加。学生たちは担当者の説明に聞き入っていた

原産協会によると、今回の催しのきっかけとなったのは昨年4月の原産大会で実施した学生主催のシンポジウム。このシンポジウムを通じて原子力関係の学生にさえ、原子力産業の事情が知られていないことを痛感。次代を担う世代にあらためて原子力産業界の現状や将来を知ってもらおうと急ぎ、企画。昨年秋季ごろから準備を始めたという。

首都圏の大学や大学院など約90キャンパスにボスターを配布したり、学生に直接参加を呼び掛けるメールを出したりして周知した。

一方、参加した企業や団体にとっても同セミナーは自らの事業内容をPRするきっかけの機会となる。特に知名度が一般的にあまり浸透していない原子力産業会社では、最近の好況で優秀な人材の確保に苦勞している面もあるだけに、自社をアピールする格好の場となったようだ。

「は自らの事業内容をPRするきっかけの機会となる。特に知名度が一般的にあまり浸透していない原子力産業会社では、最近の好況で優秀な人材の確保に苦勞している面もあるだけに、自社をアピールする格好の場となったようだ。」

「セミナーに参加した男子学生の一人は「出身地の企業が出たので参加した。きょうのセミナーで事業内容がよく聞けてよかった。就職先のひとつとして考えている」と話していた。また、出展企業の担当者は「これまで地元大学の先生方を通じて採用していたが、正直それでは採用が難しくなっている。今回こうした機会を持てたことはありがたい」と語っていた。

原産協会の服部拓也副会長は「原子力業界はこれまで内向きで、しかも黙っていてもいい人材が集まっていた。しかし今や時代は変わり、もっとアピールしていくことが

重要になってきている」と述べ、今後も人材問題に力を入る考えを示していた。



2007.2.9(金) 朝日

求む 異質の人材

原子力業界合同 学生向け説明会

来春卒業する大学生の就職活動が一躍り手市場一で始まるなか、原子力産業に関心を抱く学生が増え、約30の関連企業や研究機関が8日、東京都内で合同業界セミナー

「を聞いた」写真。原子力産業は日本企業を軸に世界的な再編が起きており、優秀な人材確保を狙って日本原子力産業協会が初めて企画した。対象は原子力専攻だけでなく理工系学生全般で、設備保全やシステム関連の企業などが出展。「原子力村」と言われる関係機関が指摘されてきた業界だけに、同協会は「学生や社会との接点を増やす試みの一つ。原子力と無縁な学生にも関心を高めてもらいたい」と話す。